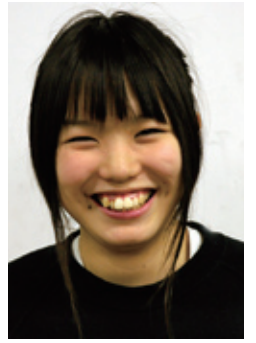


書道の魅力を伝えたい

あいか……埼玉県立川口高校3年*



あいかさんの声は、「くりっくにっぽん」で聞けます。



書道が大好きで、小学校3年生から書道教室に通っています。書道の楽しさや魅力をたくさんの人に伝えていきたいです。

中学生のとき書道教室で「書の甲子園」の作品集を見ました。そこには川口高校書道部の先輩の作品が載っていました。それまで、書道はお手本通りに書くものだと思っていたのですが、その作品は違ってました。圧倒されるほど力強く、迫力がある書体で、今までの書道のイメージが変わりました。それがきっかけでこの先輩のいる書道部に入りたいと思い、川口高校に入学しました。

伝えることの大切さ

書道部に入ってから、私はすごく変わったと思います。中学の頃は、人と違う意見を言うと嫌われてしまう雰囲気があったので、いつも自分の意見を抑えていました。そして高校で書道部に入った頃も、あまり自分の意見を言わないようにしていました。でも先生から「自分の意見を抑えていても人に伝わらないよ」と言われ、勇気を出して自分の思いや考えを主張してみました。そのとき、みんなはきちんと受け止めてくれたんです。それから、私は自分の意見をきちんと伝えられるようになりました。

私たちの書道部では、みんなが協力して一つの作品を作り上げるパフォーマンス書道も行っています。多数で行うため、それぞれの意見が食い違ってしまったりもします。そういうときこそ、自分の意見を言うことがとても大切だと思います。例えば、「書道ガールズ甲子園」のための練習をしていたとき、パフォーマンスを重点的に練習するのか、それとも書道に比重を置く

のか、部員二人の意見が割れたことがありました。両者は黙って込み気まずい雰囲気でした。私は二人に「怒っている理由を言わないと伝わらないし、相手の意見も聞かないとわからないよ」と伝えました。そのことで、お互いが気持ちを伝え合うことができ、解決できました。このような経験から、自分の意見はきちんと相手に伝えることで、人は理解し合えるということを学びました。



パフォーマンス書道の筆。墨を吸うと1本約10キロ。これを2本束ねて使うことも。墨は一つの作品を書くのに3リットルは使います。

苦しみを乗り越えて

私は、日々の練習で気がついたことや先生のことば、ひとつひとつをすべて大事にしています。そして、それらを次の練習に生かすために毎日ノートに記録しています。もう7冊になりました。



そのなかでも3年生の夏休みに書いた「自分を素直にさらけだす。ありのままを感じる！」ということばには忘れられない思い出があります。

そのころ私は、パフォーマンス書道、展覧会や大会に出品する作品が、思うように書けず、教わったことをうまく表現できなくなっていました。力を入れようとすればするほど空回りして、うまくいっている部員をうらやましく思ったり、わからないこと

川口高校書道部

練習は月曜日～金曜日の午前5時～8時半、午後4時～8時頃。大きな大会の前は土日も練習します。主にパフォーマンス書道の動きを練習したり、大会に提出する作品を作ったりします。その後は全員で反省会をして練習を振り返ります。先生からじっくり筆使いを習うこともあります。先生は毎朝スープを作ってくれるので、それも楽しみのひとつです。

活動：

- * 全国規模の展覧会へ年間30大会出品
- * 毎年末に校外展「川高書展」を開催
- * パフォーマンス書道（日本テレビ「ズームイン!! SUPER」主催「書道ガールズ甲子園」三回連続優勝）

をわからないと素直に言えなかったりして、苦しんでいました。心が荒れて、暗くなり、いらいらして人に八つ当たりをしていました。

そんなとき、先生から「うまくできないという事実にとらわれず、なぜできないかを分析するといよいよ」と言われました。そこで、私は、「思うように書けなくて苦しい」と思うのではなく「どうしたら思った通りに書けるようになるか」「うまく書けない理由はなんだろう」と考えるようにしてみました。すると、筆を持つ力や動かし方を工夫すればいいんだと気がつくことができました。それからは思ったような文字が書けるようになりました。今思うと、自分で自分を苦しめていたんですね。このような経験から、何か苦しいことに直面しても、できないことを素直に認め、考え方を変えてみることで解決できるということに気がつきました。苦しかったです、大きな気づきを得ることができました。失敗は成功のもとですね。

夢に向かって

母は、「あいかは、もし書道部に入っていなかったら、ひきこもりになっていたかもしれないね」と言います。私もそう思います。人と交流することが苦手だったので、書道部での仲間や先生との出会い、パフォーマンス書道がなければ、学校に行っていなかったかもしれません。私にとって、書道とは生活の一部、というよりも人生そのものです。将来もずっと書道に関わっていきたいと思っています。

私の夢は、筆を作る職人になることです。職人になるためには、勉強するお金が必要なので、まずは高校卒業後に書道用品の会社へ就職することにしました。そこで社会人として経験を積み、夢を叶えるためにお金を貯めたいです。今まで、さまざまな種類の筆を使ってきて、筆の材料によって書いたときの感触が違うことに興味をもちました。いろいろと筆について調べているうちに、おもしろくなってきて、いつか自分で作ってみたいと思うようになりました。

この3年間、ただ書道の技術を磨いてきただけではありません。礼儀作法や精神的な強さも身につけました。これらのことは、卒業して社会に出ても役に立つと思っています。これからも、失敗をバネにして次へと生かして進んでいきたいです。

書道の魅力

筆で書いた文字は、墨の量、力の入れ方などで、同じ文字でもまったく違って見えます。それから、書いた人の癖、性格などが表れるので、書いた人の人となりが見た人にも伝わります。これが書道の魅力ですね。

そして特にパフォーマンス書道は、書いている人だけではなく、見ている人も楽しめるところが魅力です。私がパフォーマンス書道を始めたのは、書道部に入ってからです。初めは、あんなに大きな紙に書くことにとっても驚きました。大きい筆を持ったときは緊張しました。でも今では、音楽に合わせて動きながら書くことが楽しくて仕方ありません。そして、私たちが楽しんでやっていると、私たちのパフォーマンスを見ている人も楽しそうにしてくれていて、気持ちが伝わっているんだなと実感します。書く人と見る人の気持ちがつながることは、とても嬉しいですね。

*この記事は2010年2月に行ったインタビューをもとにまとめました。学年はインタビュー当時のものです。



川口高校書道部の作品「道」

この作品のテキストは「くりっくにっぽん」で見られます。

わたしの好きなもの

好きな文字

「進」。私たち書道部の仲間はこれから、それぞれ違う道へ進むけれど、ここで学んだことを大事にすれば、まっすぐに「進」んでいける、と思うからです。



好きなことば

「あきらめない」今の自分があるのは、つらいことがあっても書道をあきらめずにきたからです。

好きな場所

書道部の部室と、自分の部屋。心が落ち着くから。

趣味

書道と、書道に関する本を読むこと。榊莫山が墨について書いた本が特に好きです。

書道部顧問の三宅先生からあいかさんへのメッセージ

あいかはこの3年間、書道パフォーマンスを通じて、人と支え合うことを学んだと思います。ほかの人から支えられていること、そして自分もほかの人を支えていることを実感したのではないのでしょうか。そのようななかで、あいかは、人を思いやり、気遣える人に成長しました。同時に、自分と向き合い、少々のことではめげない強さも身につけました。

あいかには、他人の気持ちがわかる大人になってほしいです。そして、自分の気持ちを素直に表現して、いつまでも書と人を愛する人であってほしいです。